



公立宍粟総合病院

〒671-2576 宍粟市山崎町鹿沢 93 TEL：0790-62-2410

VOL.
26

令和10年3月
新病院開院予定



令和7年7月時点のバース図であり変更が生じる場合があります

CONTENTS

P1…在宅医療を推進～安心して暮らし続けられる地域医療の実現を目指して～

P2…医療サービスの質や患者満足度を向上させる取り組み

・身体的拘束等最小化プロジェクト

・ハラスメント防止研修、糖尿病教室

P3…新病院建設工事が本格的にスタート

看護師育成講座が始動

P4…将来の地域医療を担う若い世代を育てる取り組み

宍粟市の地域医療をサポートする会から花束贈呈

Headline Contents

在宅医療を推進

～安心して暮らし続けられる地域医療の実現を目指して～

当院では、兵庫県西播磨地域の保健医療計画（令和5年度改定）に基づき、在宅医療における「積極的役割を担う医療機関」として、体制の強化に努めています。

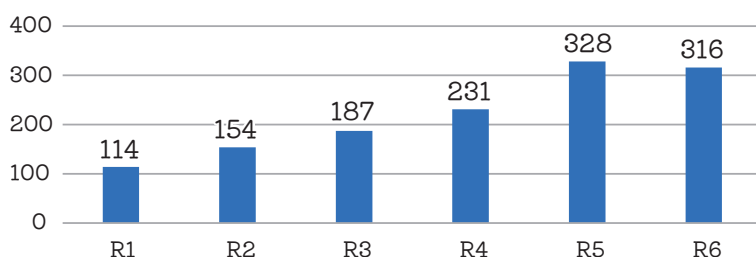
患者さんが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるために、「在宅医療の提供」は、ますます重要な役割を担います。当院では、通院が困難な患者さんに、安心して自宅でも療養が続けられるよう、訪問診療を実施しています。また、在宅での看取りも行い、患者さん一人ひとりが人生の最期まで「その人らしい暮らし」を実現できるよう支援しており、訪問診療件数は、年々増加傾向にあります。

今後も、患者さんが安心して暮らし続けられる地域医療の実現を目指して、在宅医療を推進していきます。



訪問診療件数（年度別推移）

単位：件



住み慣れた地域で自分らしく生きて欲しい



内科医 八木洋輔

在宅医療は、患者さんやご家族にとって「自分らしく生きる」ことを支える医療です。病院での治療だけでなく、自宅という安心できる環境で、必要な医療を受けながら穏やかに過ごしていただくことは、在宅医療の大切な役割です。

私たちは、通院が難しい方にも寄り添い、訪問診療を通じて、日々の暮らしを支えるお手伝いをしています。ときには、患者さんの最期の時間をともに過ごすこともあります。その一つひとつが、かけがえのない出会いであり、医師として大切な時間です。

これからも「地域で安心して暮らし続けられる医療」を目指して、在宅医療の充実に力を尽くしてまいります。



医療サービスの質や患者満足度を向上させる取り組み

【患者さんの尊厳を守るために ～身体的拘束等最小化プロジェクト～】

当院では、患者さん一人ひとりの尊厳を大切にする医療の実現を目指し、身体的拘束等の最小化に向けた取り組みを開始しました。

1 「身体的拘束等の適正化に向けた指針」を策定

基本方針
(一部抜粋)

身体的拘束等は、原則禁止する。緊急時や安全性が確保できないと医学的に判断された場合を除き、身体的拘束、及びその他患者の行動を制限する行為を行わない。

患者の人権を最優先にする

身体的拘束廃止に向けて
常に努力する

安易に「やむを得ない」で
身体的拘束を行わない

2 「身体的拘束等最小化チーム」を設置

チーム
メンバーの
抱負

医師・看護師・リハビリスタッフなど、多職種が連携する「身体的拘束等最小化チーム」を立ち上げました。毎週、病棟のラウンドを行い、各専門分野の視点から身体的拘束等を行わずに安全を保てる方法を検討しています。

職 種	抱 負
医 師	患者さん一人ひとりの人権の尊重と安全性の確保に努めます
看 護 師	患者さんの尊厳を大切に、身体的拘束のない看護を日々心がけます
管理栄養士	適切な栄養サポートにより心身の安定や行動の改善を図り、拘束を必要としない環境を目指します
薬 剤 師	薬を適正に使用して、安心・安全な治療と拘束の最小化をサポートします
作業療法士	適切に機能評価を行い、患者さんがストレスなく安全に過ごせるよう努めます
MHSW(精神保健福祉士)	安心して入院・退院していただけるよう相談支援に努めます



3 「身体的拘束等の適正化に関する研修会」を実施

本年4月と5月には院内全体を対象とした研修会を開催し、安易な身体的拘束等に頼らない意識づくりのため、職員がこの方針を理解・共有する機会を設けました。



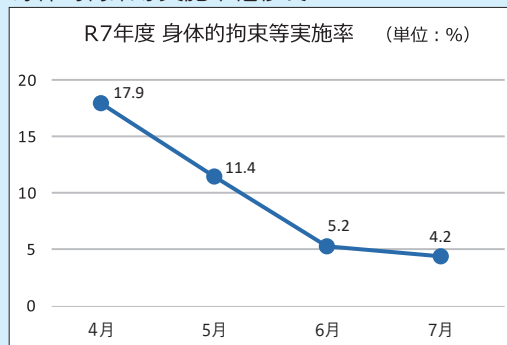
現場スタッフの声(病棟看護師より)

- 患者さんのそばに居る時間が増えました
- 患者さんを見守るようにしています
- 患者さんの環境を見直しています
- 常に拘束をしないように考えています

当院では、これからも「身体的拘束ゼロに近づく」ことを目標に、患者さんに寄り添った医療を提供していきます。

▶取り組みの成果◀

身体的拘束等実施率推移表



・4月～7月にかけて身体的拘束の実施率は減少

ハラスメント防止研修

6月19日(木) 職員が安心して働ける職場環境づくりの整備と良好な人間関係の構築を目的として、特定社会保険労務士による研修を開催しました。



糖尿病教室

7月14日(月) 糖尿病教室を開催し、当院の糖尿病内科医と糖尿病療養指導士(看護師)による講座を行いました。次回は10月25日(土)の予定です。ぜひ、当院ホームページからお申込みください。



新病院建設工事が本格的にスタート

7月2日、「戸田・神名特定建設工事共同企業体」との工事請負契約を締結し、同月8日には新病院建設地にて「起工式」が執り行われました。令和10年3月の開院に向けて、これから本格的な建設工事が進んでいきます。



起工式に臨む
関係者



佐竹院長あいさつ

新病院開院に向けて、ハード面だけでなく ソフト面も充実を図る

看護師の“人への理解力”をさらに磨く 「公立宍粟総合病院 看護師育成講座」が始動



7月より、当院では看護師の“人への理解力”を高め、質の高い看護の提供を目指す新たな取り組みとして「看護師育成講座」を開講しました。本講座は、看護学の第一線で長年活躍されてきた牛尾禮子名誉教授（姫路大学前学長）によって当院看護師のために設計された講座です。宍粟市ご出身の牛尾名誉教授より故郷の地域医療に貢献したいとの思いでご協力をいただきました。本講座では、患者さんや職員との関わりを振り返りながら「人を理解する力」を体系的に修得します。看護師としての基本的態度を深め、自己の成長につなげていくことで、より患者さんに寄り添える看護師の育成を目指します。



講座概要

期 間 令和7年7月～12月（全5回）

会 場 公立宍粟総合病院 別館3階 講堂

対 象 当院看護師（師長・主任クラス）20名程度

講 師 牛尾 禮子 名誉教授（博士〔人間科学〕／姫路大学前学長）

宍粟郡山崎町（現宍粟市）出身。長年にわたり看護学の第一線で活躍し、令和5年3月まで姫路大学学長を務める。関西福祉大学および姫路大学では、大学院看護学研究科を立ち上げ、研究科長として数多くの大学院生の教育力・指導力・研究能力を体系的に授けてきた。看護の本質を問う姿勢と、人を深く理解するまなざしは、多くの看護職者の人生と実践に影響を与えている。



将来、宍粟市の医療を担う若い世代を育てる取り組み

医学生

地域医療夏季セミナー

8月7日・8日の2日間、地域医療夏季セミナーを開催しました。このセミナーは、県内各市町が連携して実施しているものです。

宍粟市では8名の医学生を受入れ、へき地診療所の見学、地域住民との意見交換、宍粟市医師会の先生方と当院医師との意見交換などを行いました。

医学生からは「将来、宍粟市で働きたい」といった前向きな声が寄せられました。

本セミナーを通じて出会った医学生たちが、宍粟市で医療を担ってくれることを心から期待しています。



高校生

千種高等学校就業体験実習

7月22日から25日までの4日間、千種高校の就業体験実習を受入れました。実習では、地域医療の現場で働くことへの理解を深めていただくために、看護師や助産師が日々行っている業務の一部を体験していただきました。

山崎高等学校医療体験

8月6日、山崎高校の医療体験で20名の生徒を受入れました。生徒の希望に応じて、看護師、助産師、薬剤師、理学療法士、臨床工学技士など9種類の各専門職が、仕事内容の説明や体験を通してやりがいなどを伝えました。生徒たちは真剣な表情で取り組み、積極的に質問する姿も多くみられました。



中学生

トライやるウィーク体験報告

6月2日から6日までの5日間、今年も近隣の中学校から6名の生徒が当院での職場体験に参加されました。医療従事者用のユニフォームに着替え、病棟でのシーツ交換や医療材料の準備など、さまざまな業務を体験していただきました。



最初は緊張した様子も見られましたが、日を追うごとに笑顔や積極的な姿勢が増え「病院の仕事にますます興味がわいた」といった、うれしい感想を聞くことができました。



ベッドメイキング



医療材料の準備

研修医へ 花束贈呈



4月に就任された研修医の先生方に、「宍粟市の地域医療をサポートする会」より、心のこもった花束が贈られました。この贈呈は、研修医の先生方への感謝と激励の気持ちを伝えるため、同会が毎年行っているものです。

